

【別紙⑨】

第4学年2組「総合的な学習の時間」学習指導案

1. 単元名 「誰もが過ごしやすい社会を考えよう」

2. 単元設定の理由

本学級の児童は、1学期に自分の調べたいパラスポーツの競技について調べ、新聞にまとめる活動を行いながら、障害には様々な種類があることを知った。しかし、テレビやインターネット等で障害のある人の日常生活を見たことはあっても、障害のある人と出会って話をし、実生活の中でどのような困りごとがあるのか、どのような支援が必要なのか考える機会が少ない。また、障害があるからできないと判断したり、何か手伝ってあげなくてははいけないと思ひ込んだりして、障害の有無に関わらず誰もが同じように生活したり楽しんだりできるよう、考えを深めるまでには至っていない。本学級には、外国にルーツをもつ児童が1名在籍している。日本語でのコミュニケーションは十分に取れているが、自分から進んで自分の考えを伝えてはいない。

本単元の『誰もが過ごしやすい社会を考えよう』では、まず、パラスポーツについて様々な情報を収集したり、障害についての疑似体験をしたりすることで、障害のある人が抱える問題をより身近に感じることができる。次に、誰もが過ごしやすい社会とはどのようなものかをイメージさせることで、自分たちにできることは何かを具体的に考える。アイデアを出し合い、「理想のまち」について考えることで、障害がある人だけでなく、様々な立場の人に対しても思いを巡らせ、バリアフリーやユニバーサルデザインの重要性につなげていく。最後に、ゆるスポーツについて学び、オリジナルのゆるスポーツを考案する中で、様々な壁を無くし『誰もが楽しめる』＝『誰もが過ごしやすい社会』をめざすための考え方や心の在り方を育むことができる教材である。

指導にあたっては、単元を通して、自分事として捉え、課題解決に向けた自分の考えを導き出していく姿を大切にしたい。そのための具体的な手立ては以下のように行う。

障害のある人が抱える問題をより身近に感じるために、様々な情報を収集させたり、疑似体験をさせたりする。そして、誰もが過ごしやすい社会とはどのようなものか、自分たちにできることは何かを具体的に考えさせたい。

- 調べたりまとめたりする場ではインターネットやJamboardを、自分たちの考えを発表する場ではスライドを使用させる。情報の共有や整理、意見の交換や集約など、様々な場面でICT機器を効果的に活用し、課題解決に向けた自分の考えを導き出していく一助とする。
- 自分たちのゆるスポーツを様々な人に体験してもらうという最終目標を伝え、多様な存在を意識したルールや制限を工夫することで、障害の有無に関わらず誰もが楽しめるということに気付かせたい。

3. 単元の目標

- ・ 障害について実体験を通して理解を深めることで、誰もが過ごしやすい社会にするために自分ができることを考え、より良い社会をつくっていかうとする態度を育てる。
- ・ 外国にルーツをもつ児童を含むすべての児童が、本単元の活動を通して自分の力で伝え合い、共に伸びようとする意欲を育てる。

4. 人権教育の観点 3-(2)-ア 人間関係の活性化

障害のある人たちへの理解を深める活動を通して、相手の立場に立って考え、自分ができることを考え行動しようとする意欲と、人と人がより良く共生していくために必要な資質・能力及び態度を育てる。

5. 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な障害について理解できる。 ・ 自分の考えを整理したり表現したりするためのICT機器の操作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の社会が抱える課題を見つけることができる。(課題設定能力) ・ 目的に応じて、どのような方法で調べるかを決め、情報収集した内容をまとめ、自分のことばで伝え合うことができる。(情報収集) (選択・整理・分析・判断) (まとめる・表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが過ごしやすい社会について自分事として捉え話し合い、自分の考えを他者に伝えることができる。 ・ 誰もが過ごしやすい社会にするために、全ての児童に自分ができることを考えることができる。

6. 本時について (11/20 時)

(1) 目標

障害のある人の話や疑似体験を通して、今の社会が抱える課題を見つけ、どんな社会になれば誰もが過ごしやすいかイメージすることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○具体的な支援 ☆評価	備考
1. 本時のめあてを確認する。	○ グループで障害の種類別にまとめた模造紙を見ながら、障害のある人にとって困ることと住みやすくなるために必要なことを伝え合い、本時につなげる。	模造紙
<p>誰もが過ごしやすい社会について考え、イメージしよう。</p>		
2. 「誰もが」について誰のことか考える。	○ 障害のある人だけでなく、色々な立場の人が居ると投げかけて、高齢者・妊婦さん・赤ちゃんなど自分も含めて「全ての人」のことだと気付かせる。	ワークシート
3. 今の社会が抱える課題を見つける。	<p>○ 漠然としたイメージだけでなく、障害のある人にとってはどうか、前時までに体験したり調べたりしたこともふまえて具体的に考えさせる。</p> <p>○ 高齢者・妊婦さん・赤ちゃん・自分を含めた「全ての人」を意識させ、一つ一つ具体的に自分たちの生活や社会に着目させて自分事としてイメージを広げさせる。</p> <p>○ 過ごしにくさの原因となる困りごとや不便なことなど、今の社会が抱える課題を見つけさせ、それを無くすことで、「過ごしやすい」につながることに気付かせる。</p> <p>☆ 「誰もが過ごしやすい社会」について、課題を見つけることができる。</p>	
4. 本時のふり返りをする。	○ 板書を見ながら出てきた課題をふり返らせ、クラス全体で共有することで、次時からの学習活動の見通しをもたせる。	